

11月7日(水) 本年度第17回(通算2937回)12時30分～ 釧路プリンスホテル  
『米山・財団月間によせて』

担当/財団委員会

☆出席報告【会員総数80名 免除4名 出席計算に用いた会員数80名】

本日の出席率 出席者名 40名 メーキャップ 10名 出席率 62.5%  
前々回の修正出席率 出席者名 50名 メーキャップ 11名 出席率 76.25%

☆ニコニコ献金

- ・泰地委員長、多田君、松下君、本日の例会よろしく申し上げます ～小林 裕幸君、大友 淳君
- ・新入会員歓迎会、皆様ご協力ありがとうございました。クリスマス忘年会もよろしく申し上げます  
～石森 将敬君
- ・誕生日ありがとうございます ～大澤 恵介君
- ・ご無沙汰しておりました ～鈴木 圭介君
- ・本日の例会よろしく申し上げます ～泰地 浩幸君
- ・誕生日です。ありがとうございます ～高橋 貢君、森山 義文君、山岸 弘典君
- ・鈴木君、久しぶりですね。来週からちゃんと来て下さい ～平井 昌弘君
- ・本日よろしく申し上げます ～松下 貴志君

《大友幹事》



【 回 覧 】

- 1, 釧路東 RC 様・釧路南 RC 様・釧路西 RC 様・釧路ベイ RC 様・浜中 RC 様より、11月例会プログラムのご案内が届いております
- 2, 釧路北ローターアクトクラブより、第9回例会のご案内が届いております。
- 3, 釧路市民活動センター様より「わっとだより」第89号が届いております。

【お願い】

1. 次週14日の例会は17日(土)の「IDスポーツ大会」の振替休会となっておりますので、お間違えの無いようお願いします。
2. 11月21日も休会となっておりますので、お間違えの無いようお願いします。
3. 「IDスポーツ大会」には、運動のし易い服装でおこしてください。また、上履きのご用意をお願いします。

☆《小林会長》☆



皆さんこんにちは。先週の新入会員歓迎会では、小久保会員・柳澤会員・千田会員、三人それぞれ不思議な魅力を発揮・発信していただきましてありがとうございました。これから、釧路北ロータリークラブの一員として持てる力を、思う存分発揮していただき、活躍していただけることを、確信したしだいであります。お疲れ様でした。

来週ですが、例会对応は17日土曜日のIDスポーツ大会となっております、14日の水曜日例会はありませんが、アカデミー研修塾が開催されます。萩原理事・北川委員長に私の年度当初にお願いしたのは、現在、当クラブは30代から40代のこれからのクラブの運営を担う人材を育てていただきたいというお話をさせていただきました。私の会長方針の中にもありますように、「時流は変わるもの」・「時代は創るもの」と書かせていただきました、若い会員の皆様がこれから北ロータリークラブで時流すなわち、その時代の風潮を利用して、物事を進める事、そして新しい事に挑戦し、躍動感や可能性が高まり、自信を持ってロータリー活動が出来るようにと、思いを込めさせていただきました。先日、出席の状況を事務局で拝見したのですが、若い会員が少ないなと感じました。開催当日まで一週間あります、大変お忙しいとは思いますが、スケジュールの調整が可能な方は是非参加してみてもはいかがでしょうか。

本日の例会ですが、米山・財団月間に寄せてとなっております、長内理事・泰地委員長よろしく願いいたします

米山・財団月間によせて



皆さまこんにちは。大変ご無沙汰しております。今日ですが、ロータリー財団米山月間となっておりますが、本日の例会はロータリー財団と米山記念奨学事業について、入会年度の若い方に向けた分かりやすい、そして初歩的な話で作りました。発表者は2名の方をお願い致しました。財団につきましては多田洋平君・米山奨学会については、松下貴志君をお願いしております。

それでは宜しく願い致します。

《財団委員会》  
泰地委員長



多田洋平君

ロータリー財団の正式名称は、国際ロータリー財団です。そしてどのように財団が出来たかは、ロータリー財団の父と呼ばれるRI 会長 6 代目のアーチ・クランプ氏の時です。

1912 年～ 1913 年クリーブランド RC 会長の時、クラブ会長として最後のスピーチで、今後クラブが多くのが出来るように「非常基金」を作ることを提案しました。

4 年後の 1917 年に RI 会長であったアーチ・クランプが米国ジョージア州アトランタ国際大会で「ロータリー基金を作り、全世界的規模で慈愛、教育、その他、社会奉仕の分野で、何か良いことを使用ではないか」と提案しました。

数か月後に、米国ミズリー州カンザス・シテイー RC から米貨 26 ドル 50 セントの最初の寄付金を受け取りました。

これがきっかけで、やがてロータリー財団に発展していく過程となりました。

1928 年に米国ミネソタ州ミネアポリス大会で、この基金はロータリー財団と改称され、ロータリー内の別個の存在となりました。

1930 年代に財団は最初の補助金を授与しました。ロータリー創立者ポール・ハリスが名前を秘して米貨 500 ドルを寄付し、身体障がい児童保護国際協会にその 500 ドルを要望しました。これが現在迄続くロータリーとリハビリテーション活動の長い提携の一端にすぎません。ポリをプラスによって財団の熱意は、リハビリテーションと言う枠を超えて、一生の障がい又は、死に至る小児病棟の予防まで発展しました。ポールハリスの逝去で寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられるようになり、財団はポールハリス記念基金を設け、ロータリアンに対して、財団寄付をお願いいたしました。その反響は素晴らしく、翌年の 7 月まで米貨 130 万ドル以上が寄付されました。

財団のプログラム

- ①人道的プログラム・・・マッチンググラント・地区補助金・個人向け補助金・3-H 補助金
- ②教育的プログラム・・・国際親善奨学金・世界フェローシップ・研究グループ交換大学教員の為のロータリー補助金  
ロータリー平和及び紛争解決研究プログラム

③ポリオ・プラス・プログラム

寄付は大きく分けて 3 種類となります。

- ①年次寄付
- ②恒久基金寄付
- ③使途指定寄付

ロータリー財団は、惜しみなく寄付してくれる人々を創立者にちなみ、ポール・ハリス・フェローとして認証しています。



松下貴志君

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区が参加する合同プロジェクトです。事業の始まりは、終戦の翌年1946年に「日本のロータリーの父」米山梅吉が亡くなりました。3年後の1949年、戦争の為解散を余儀なくされた日本のロータリーが、国際ロータリーへ復帰しました。戦後、落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことが出来るような、何か有益な事業をやろうではないかという声が大きくなってきました。そして1952年、東京RCの古沢丈作会長が「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助して、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために「平和日本」を肌で感じてもらいたいというものでした。こうして、東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で日本の全ロータリークラブの共同事業として継承され、1967年には、財団法人米山記念奨学会が設立されました。そして、2004年11月のRI理事会で、「奨学金の授与を通し、世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を称賛する」とされ、これ以降、ロータリー米山記念奨学会が「多地区合同奉仕活動」の手続きをとることにより、ロータリーの名称やロータリーマークを今後も続けて使用することを認める、ということが決議されました。2007年には34地区から同意を得て、国際ロータリーの定める多地区合同奉仕活動として、すべての手続きを完了しました。

## 今週のスナップ

